

【本教材について】

- テーマ： 2. 災害から住民の命を守るには
- 単元名： 2 被害を最小限とするための取り組みと地域に対する防災知識の普及
- 所要時間： 60分程度
- 準備：
 1. 班の分だけの模造紙と、参加者の分だけの細マジック(黒)、付箋紙(2色)を準備して下さい。
 2. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性(自主防災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど)に応じて、内容の追加・削減や修正・変更を検討することで、より良い研修効果が期待できます。
 3. 実際に研修を行う前に、何人かのグループを作り、練習し合う場を設けることもよい研修とするうえで効果的です。

自主防災組織等のリーダー育成研修

災害から住民の命を守るには

被害を最小限とするための
取り組みと
地域に対する防災知識の普及

学習目標と内容

●学習目標

災害時に必要な地域の情報収集と伝達方法を理解し、自主防災組織のリーダーとして、避難の際の要配慮者への支援及び地域の防災意識を向上する方法を理解する

<目次>

- 地域の情報収集・伝達 P. 4～15
- 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制 P. 16～35
- 地区防災計画の作成 P. 36～53

1. 地域の情報収集・伝達

災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)

【風水害】



大雨・台風・竜巻等の恐れ

【住民等が取るべき行動】

自助 気象・避難等の情報収集

・気象情報や自治体からの避難情報等の情報の収集

自助
共助
公助 指定緊急避難場所等への避難・避難支援

・より安全な場所(指定緊急避難場所や近隣の安全な場所等)への避難

・避難行動要支援者の避難を支援

洪水・浸水・土砂災害・高潮等の発生

共助
公助 指定避難所での避難生活・在宅避難者支援

・避難生活が長期化する場合、避難所運営

・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援

- ・1限目のおさらいとして、風水害の発生の恐れがあるときから発生後の行動を大まかに確認します。
- ・自助と共助の取組の重要性も確認します。

災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)

【地震災害】



地震の発生

自助 身の安全の確保・避難

【住民等が取るべき行動】

- ・身を守る行動、火の始末、自宅の初期消火、家族の安否確認

建物倒壊・火災の発生等

共助 安否確認・被害情報の収集・消火・救出・救護など

・安全第一

共助 避難誘導・避難支援・二次被害の防止など

- ・避難場所等への避難
- ・避難行動要支援者の避難支援等
- ・避難時にはブレーカーを切る、ガスを止める

共助 指定避難所での避難生活・
公助 在宅避難者支援

- ・避難生活が長期化する場合、指定避難所の運営
- ・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援

・1限目のおさらいとして、地震発生時からその後の行動を大まかに確認します。
・自助と共助の取組の重要性も確認します。

- 受講者に対して、過去の災害から学べることは、災害は一人の力では乗り越えることができないこと、地域で共に助け合い乗り越える必要があること（共助の必要性）を伝えるとよいでしょう、

地域のいのちを守るには
自助の力に加えて
共助の力で災害を乗り越える
ことが不可欠です

- 受講者に対して、これから学ぶことについて問いかけ、興味を持ってもらいます。

災害発生前後において
地域のいのちを守るためには
どのような共助の活動や
事前の取組が効果的でしょうか？

災害に際しての主な活動内容

- ・ 災害時の地域での活動内容（共助の活動）をイメージしてもらいます。



情報収集・伝達 安否確認

災害に関する正しい情報を把握しながら次の行動に備えましょう。また、家族の安否確認も行いましょう。



出火防止 初期消火

火災を防ぐために火の元を確認し、ガスの元栓を閉め、出火したとしても小さな炎のうちに消火しましょう。



救出・救護

救急車の到着が遅れ救助活動が間に合わないことも考えられます。軽いケガなどの対処法を身に付けておきましょう。

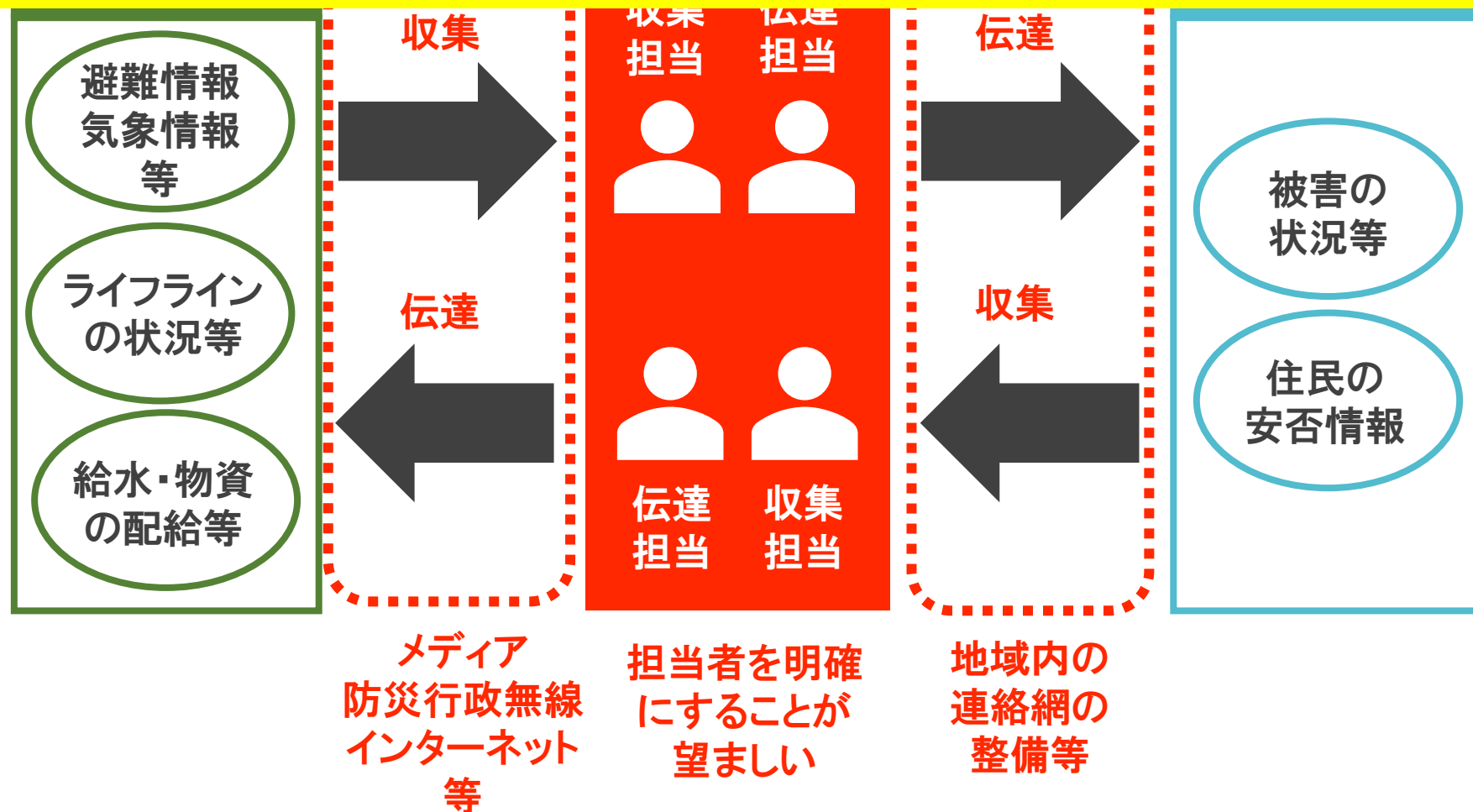


避難誘導

近所で力を合わせながら、配慮や助けが必要な人には声をかけ、一緒に避難誘導をするなどの支援をしましょう。

情報収集・伝達の流れ

- ・ 災害が発生（またはその恐れがある）すると、地域の状況は一変します。そのような地域の状況を把握し、限られた情報の中で判断行動することを可能にするのは「情報」を収集し共有することを伝えます。
- ・ 災害対応の第一歩は情報を収集し、その内容を整理・把握し、重要な情報を正確に分かりやすく確実に伝達することであることを説明します。



【事例】 「情報伝達」の先進的な事例

■放送を活用した情報伝達

ゆるじ
(百合地区防災会:兵庫県 豊岡市)

- 自治会独自の屋外放送設備を設置している。台風が来た際に、市から避難指示が出たが指定避難所では間に合わないと、自治会保有の屋外放送設備で「神社の社務所を避難所にする」旨を放送した。
- 一人暮らし高齢者を救出し、安否を確認した。

参考:内閣府防災「地域コミュニティの力を活用した風水害対策の活動事例」

■ブロックごとに被害状況を報告

しみず おりど
(清水区折戸五区自主防災部会:静岡県 静岡市)

- 地区を5ブロックに分け、ブロックリーダーを配置。避難が完了したら、ブロックリーダーが、ブロックの「被害確認状況報告書」を防災リーダーに提出。防災リーダーが取りまとめて、折戸五区防災本部へ報告する。

参考:静岡県「夜間を想定した津波避難訓練」

**皆さんの地域では
住民の安否確認の方法は
決まっていますか？**

【事例】「安否確認」の先進的な事例①

・ 受講者が身近に思える取組として、自治体が独自に取り組んでいる安否確認方法を説明したり、自治体内の地域の好事例を紹介したりするとよいでしょう。

■目印を利用した安否確認

かぎとり
(鉤取ニュータウン町内会:宮城県 仙台市)

- 住民自ら自宅の玄関に「目印」を掲げて、「無事」を知らせる
- 班長は、地域を見回り、目印が掲げられていない世帯の無事を確認する
- 地震発生後 35 分で、全 129 世帯約 400 人の安否を確認できた



参考:仙台市「東日本大震災時の自主防災活動-あの日-」

■ホワイトボードを利用した安否確認

とつか
(グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会:神奈川県 横浜市)

- 管理棟に、各戸の部屋番号が予め記入されたホワイトボードを常設し、災害時には各世帯が自分で安否の状況を書き込む



参考:横浜市危機管理室「ヨコハマの「減災」アイデア集」

【事例】「安否確認」の先進的な事例②

■マップを利用した安否確認

のと
(能登半島地震:石川県 輪島市)

- 地域マップは、寝たきりや一人暮らしの高齢者などの所在地を蛍光ペンで色分けして、あらかじめ明らかにした地図
- 民生委員や福祉推進委員が日頃の見まわり活動を通じて、高齢者などの所在地が頭に入っていたこと、顔なじみになっていたことが功を奏した
- 発災直後の避難誘導活動だけでなく、その後の在宅避難者支援(特に要配慮者)などの活動でも役立った



図. 地域みまもりマップ (イメージ)

高 齢 者	もも色	ねたきり高齢者 (名前を記入)
	き色	一人暮らし高齢者
	みどり色	その他の高齢者
障 害 者	そら色	障害者 (名前を記入)

参考:内閣府防災「コラム「地域みまもりマップ」による迅速な安否確認(能登半島地震)」

1. 地域の情報収集・伝達

- まとめ -

- 災害時に、地域のいのちを守るための共助活動を的確に実施するには、地域の状況を理解するための情報を収集し、伝達することが不可欠です
- 地域で情報収集・伝達や安否確認を円滑に行う仕組みを理解し、地域ぐるみで取り組みましょう

2. 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制

要配慮者とは

- 「要配慮者」や「避難行動要支援者」は災害対策基本法に定義された防災特有の難しい用語です。丁寧に説明します。
- 災害対策基本法：
<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=336AC0000000223>

要配慮者

高齢者、障がい者、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人、LGBTなど特に配慮を要する者

避難行動要支援者

要配慮者のうち、災害時等に自ら避難することが難しく、特に支援が必要な者
(介護が必要な高齢者や一定程度の障がいを持つ方など)



災害時の避難支援

避難支援等関係者

避難行動要支援者の避難支援等に関する者

※避難行動要支援者名簿

避難支援には、避難行動要支援者名簿の作成が重要です。

避難行動要支援者名簿は個人情報取り扱いに注意が必要ですが、全国的に活用が進んでいます。

- 避難能力の有無は、以下のことに着目して判断します。
 - ✓ 警報や避難指示等の災害関係情報を取得する能力
 - ✓ 避難そのものの必要性や避難方法等について判断できる能力
 - ✓ 避難行動をとるうえで必要な身体能力

要配慮者への支援の必要

- これまでの災害では・・・
高齢者などを中心に、逃げ遅れによって被災したり、過酷な避難所生活で病気にかかったりした
- このような**要配慮者**への避難の支援や避難所生活での配慮などは、その人の身近な存在である隣近所同士で助け合うことが基本
- 平常時に地域で支援体制をつくっておくことが必要

地域の中には、「自力で避難」
することが困難な方々がいらっ
しゃいます

どのような方が避難が難しいと
考えられますか？

- ここからは、先ほど学んだ「要配慮者」や「避難行動要支援者」は多様であり、避難行動時の困難や事情もそれぞれに違っているため、それぞれの特性に応じた配慮や支援が必要であることに気づいていただけることを目指して進めましょう。

要配慮者の体験談

・災害事例から、「自力で避難することの困難」と「どのような支援をするとよいか」を次のワークで考えるための助走段階です。イメージできるように説明するとよいでしょう。

実際に被災した要配慮者や要配慮者の家族の体験談を見てください

要配慮者	困りごと・体験談
高齢者	階段を降りられないため、停電でエレベーターが停止したら避難できない。
車いすの人	避難する人と車いすがぶつかり、ひっくり返るのではないかと不安。車いすのタイヤは空気ゴムなので、がれきやガラスが散らばっているとパンクして動けない。
視覚障がい	避難所は障害物が多い。誰かがいてくれれば安心する。
聴覚障がい	会話はできるが、マイクの音声は聞き取れないので、文字に書いてほしい。口を見て聞いているのでゆっくり話してほしい。
知的障がい等	自閉症は字が読めなくても、図柄のカードで示されると理解できる人が多い。場所・手順など避難所の壁にカードなどが貼ってあるといい。
心身障がい	人が大勢いるところは苦手。静かな空間や、話を聞いてくれる人がいると安心できる。大きな声を出すから周囲の人に迷惑をかけてしまう。



自力避難が困難な人達のことを考える

グループで、自力避難が困難な人達のことを話し合しましょう。

○まず、自己紹介をお願いします。(1人1分)

＜自己紹介の内容＞

- ・ 氏名、所属
- ・ 参加した理由
- ・ 今の気持ち

○自己紹介が終わったら、役割分担を決めましょう。

- ・ リーダー
- ・ 発表者

- ・ グループ検討を行う場合は、自己紹介（アイスブレイク）と役割分担の時間をとるとよいでしょう。
- ・ 1グループの人数は、5人±2人を目安にするとよいでしょう。



自力避難が困難な人達のことを考える

【個人検討】 <3分>

- 皆さんの周りにいる、自力で避難が困難な方について、どのような方がいるかを青色の付せん紙に書き出して下さい。

身体の不自由な人

寝たきりの人

- まずは個人作業です。
- スライドの事例を読み上げるなどして作業イメージを促進させます。（認知症、車いす等）
- 付箋に書きせない人がいないか観察します。
- 家族や近所の人など身近な人達のことを思い出してみてください、と伝えながら、促進するとよいでしょう。



自力避難が困難な人達のことを考える

【個人検討】 <3分>

- 青色の付せん紙に書き出した、自力で避難が困難な方について、避難するときに、どんなことに困るのかを付せん紙(黄色)に書き出して下さい。

身体の不自
由な人

階段や段差
を移動する
のが大変

素早い行動
が取れない

寝たきりの
人

一人で避難
できない

他の人が一人
で背負って移
動するのも大
変

- スライドの事例を読み上げながら、青色と黄色の付せん紙の並べ方（青付せん紙に関連する事項は横に並べる）も説明するとよいでしょう。

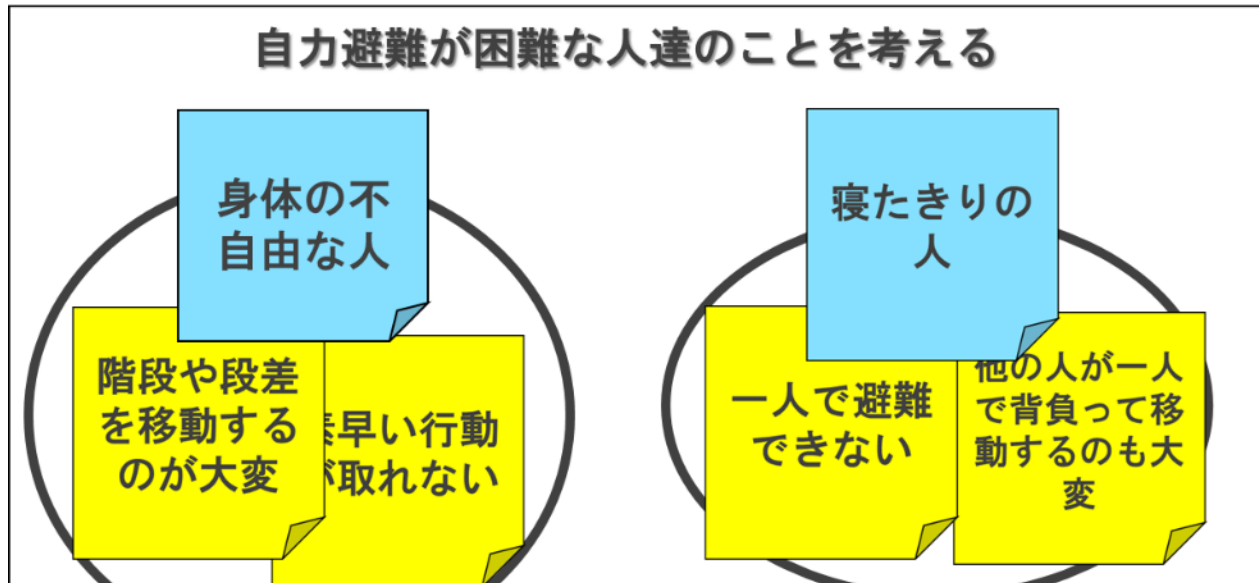


自力避難が困難な人達のことを考える

・ここから、個人で検討した内容をグループ内で共有し、話し合いを進めます。

【グループ検討】 <10分>

1. 1人が、青色の付せん紙と関連する黄色の付せん紙を読み上げ、模造紙に貼ります。
2. 他の方は、同じ内容の付せん紙があったら近くに貼ります。
3. 貼り終わったら、次の人の番。(1と2を繰り返す)
4. 全員が貼り終わったら、困る人とその困りごとを、マジック黒丸で囲みます。



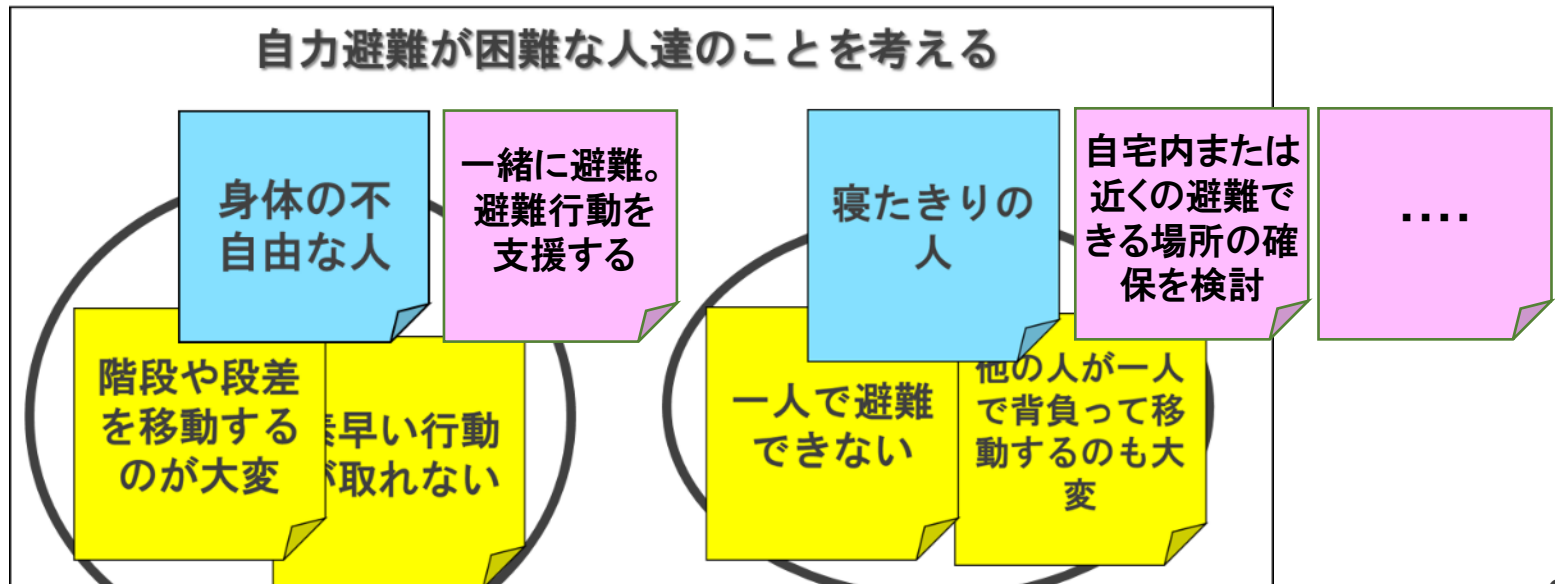


自力避難が困難な人達のことを考える

【グループ検討】 <10分>

- グループで作業した結果を見ながら、自力で避難することが難しい方にどんな支援が必要か、グループで話し合ってみましょう。
- 支援の方法を赤色の付せんに書き出し、青色のカードの近くに貼って、整理してください。

どんな支援が必要か





ワークのまとめ

- 地域には様々な要配慮者や避難行動要支援者がいます
- それぞれの特性に応じた配慮や支援が必要です

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援①

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援が、
必要になります

- ・ 参考として、要配慮者の種別ごとの特性について説明しましょう。
- ・ 時間がない場合は、主だったことだけを説明し、自宅で確認するよう促しましょう。

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
高齢者 (特に要介護高齢者)	<ul style="list-style-type: none">・ 緊急判断や素早い行動ができない・ 足腰が弱く、ちょっとした段差の登り降り等が難しい・ 避難所での生活に順応するのが難しく、体調を崩したりすることがある・ のどの渇きを認知しにくい・ 配給される物資などを個人スペースにためることがある	<ul style="list-style-type: none">・ 優先的な安否確認と避難誘導・ 自力で移動できる範囲に適切な避難場所が確保できない場合、移動手段の確保・ 避難所の個室と段差の解消・ トイレが近い居住場所の確保・ 居室の温度調整・ 徘徊の症状のある認知症の方は、行方不明にならないように周りの方に声をかけてもらう等の配慮・ 共用の食事スペースなどの用意

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援②

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
知的障がい者	<ul style="list-style-type: none">避難先での環境変化に対応できない情報が理解できない	<ul style="list-style-type: none">家族と一緒にいられる、落ち着いたスペース、個別の居室の提供家族を通じた情報等の提供
視覚障がい者	<ul style="list-style-type: none">目視による状況把握ができない	<ul style="list-style-type: none">壁伝いにトイレなどに行くことができるような居住スペースの確保順路に手すりなどを設け、移動経路上に障害物を置かない
聴覚障がい者	<ul style="list-style-type: none">音声による情報が伝わらない外見からは障がいがあることが分かりづらい	<ul style="list-style-type: none">手話通訳者、要約筆記者等の確保必要な情報は、リーフレットなどの印刷物や書き物によって伝達
精神障がい者	<ul style="list-style-type: none">精神的動揺が激しくなる場合がある	<ul style="list-style-type: none">服薬が継続できることの確認人前で安易に病名等を口にしないこころのケアチームの巡回や精神科医の診察が受けられるよう調整

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援③

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
知的障がい者	<ul style="list-style-type: none"> 避難先での環境変化に対応できない 情報が理解できない 	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒にいられる、落ち着いたスペース、個別の居室の提供 家族を通じた情報等の提供
視覚障がい者	<ul style="list-style-type: none"> 目視による状況把握ができない 	<ul style="list-style-type: none"> 壁伝いにトイレなどに行くことができるような居住スペースの確保 順路に手すりなどを設け、移動経路上に障害物を置かない
聴覚障がい者	<ul style="list-style-type: none"> 音声による情報が伝わらない 外見からは障がいがあることが分かりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> 手話通訳者、要約筆記者等の確保 必要な情報は、リーフレットなどの印刷物や書き物によって伝達
精神障がい者	<ul style="list-style-type: none"> 精神的動揺が激しくなる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 服薬が継続できることの確認 人前で安易に病名等を口にしない こころのケアチームの巡回や精神科医の診察が受けられるよう調整

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援④

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
妊産婦 乳幼児	<ul style="list-style-type: none">素早い行動ができない一人で行動ができないゆっくり体を伸ばして休む場所がない授乳スペースがない子どもの夜泣きが気になるミルクやおムツが必要	<ul style="list-style-type: none">介助者や支援者を確保し、避難行動を支援妊産婦や乳幼児用のスペースの確保ミルクやおムツの手配適切なアドバイスのできる保育士や保健師の支援要請子どもの遊び場の確保

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援⑤

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
外国人	<ul style="list-style-type: none">必要な情報が得られない周囲とのコミュニケーションが困難宗教上の理由により、生活習慣の違いがある	<ul style="list-style-type: none">専門用語の対訳されたカードの用意ピクトグラムを活用したコミュニケーションお祈りが出来る部屋などの用意特定の食物をのぞいた食事の用意様々な言語を話せる人の確保
LGBT	<ul style="list-style-type: none">着替え場所やトイレに困る	<ul style="list-style-type: none">誰でもトイレの確保個室の更衣室の確保当事者や支援者が集まれる空間の確保

【事例】 避難支援体制を確保するための取組①

- ・ 受講者にとって身近な事例として、自治体内での好事例があれば紹介するとよいでしょう。

■「**支え合いマップ**」の作成

ほりのうち はくば
(堀之内区自主防災組織:長野県 白馬村)

○ 誰が誰の安否確認を行うのか支え合いマップ作成で特定

- ・ 対象者(要配慮者)、組長、民生委員等を中心に調整し、それぞれの対象者(要配慮者)に対して、支援者を特定し、マップ上に表示。
- ・ マップの対象者には、常日頃から、民生委員を中心とした見守り活動を実施。
- ・ 平成26年11月に発生した地震発生時(最大震度 6 弱)に、円滑に安否確認や避難支援ができた。

○ 自治会役員と民生委員が連携して マップを作成

○ 毎年更新できる名簿が必要との認識 が浸透した



災害時住民支え合いマップ
づくりの取組

参考:長野県神城断層地震災害記録集

【事例】避難支援体制を確保するための取組②

■「避難支援個別計画」の作成

いずるいし
(出石町会 防災区民組織:東京都 品川区)

○ 支援方法や支援者を計画の中で決めておく

- ・ 避難行動要支援者一人ひとりの支援方法や支援者を事前に決めておく。
- ・ 名簿に掲載している避難行動要支援者全員分の個別計画書を作成した。

○ 継続的な安否確認訓練の実施

- ・ 毎年の防災訓練時に、避難行動要支援者への安否確認訓練を実施している。
- ・ 防災訓練時には個別計画書を活用して、計画内容を検証している。



避難支援個別計画づくりの取組

品川区避難支援個別計画書

参考:品川区「避難行動要支援者の支援体制づくりの手引き」

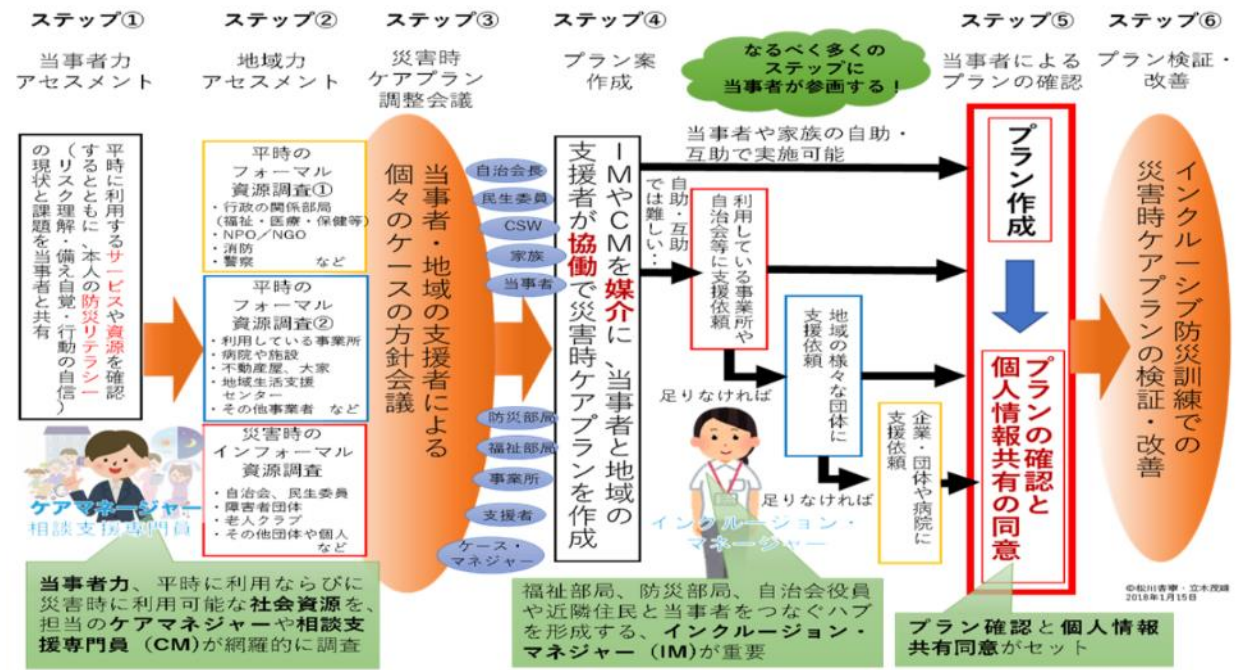
【事例】避難支援体制を確保するための取組②

追加

・自治体の取組状況に応じて、全国の先進的な取組についても説明するとよいでしょう。

■「避難支援個別計画」の作成（別府市）

○ 別府市では、平成29年度から、避難行動要支援者本人の心身の状況や生活実態等を網羅的に把握している介護支援専門員(ケアマネジャー)や相談支援専門員等の福祉関係者が参加し、当事者や地域、行政等が連携して個別避難計画作成に取り組んでいる。



誰一人取り残さない防災 福祉専門職が参画した個別計画の策定(別府市)

参考:内閣府防災「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針(令和3年5月改定)」

2. 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制 - まとめ -

- 地域で協力し合って、避難行動要支援者を把握し、避難を支援しましょう
 - 「個別避難計画」を作成し、避難支援体制を整える
 - 個人・自主防災組織・自治会など、避難支援者を確保
 - 複数人で役割分担し、地域の支援者の輪を広げ、避難支援者の負担を軽減する
 - 個別避難計画の作成後も、避難訓練を通じて、計画を改善し、避難の実効性の向上を図る

- 最後に、地域で地域のいのちを守るための取組むためのスタートに活用できる「地区防災計画」の作成について学びます。
- 地区防災計画の作成のスライドは、熊本県の「作ってみよう地区防災計画－地区防災計画の参考例-」を参考に作成しています。
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/4/77584.html>
- 講義の際は、上記資料を印刷して配布、PDFを送付（オンライン）するなどするとよいでしょう。

3. 地区防災計画の作成

< 共助 >

地域で地域のいのちを守るには
事前の取組が重要！
「地区防災計画」の作成に
取組みましょう！

地区防災計画とは

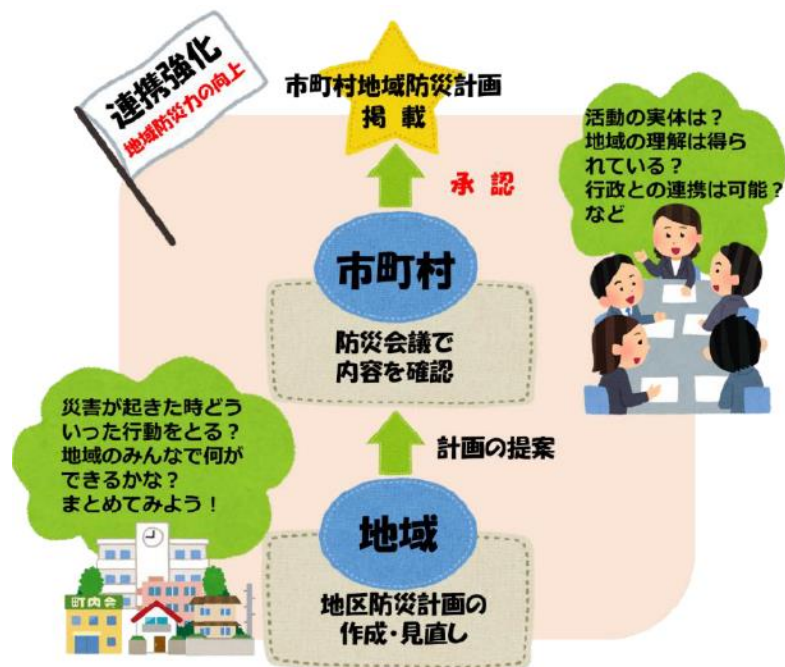
「地区防災計画」とは、自分たちが生活する地区の住民の「命を守る」ため、地区の特性や想定される災害に応じて、平時の防災活動や災害時の行動を地区のみんなで“考え”、話し合いながら“つくる”計画。

- 地域で作成した「地区防災計画」は、市町村防災会議に提案し、承認を得ることで、市町村地域防災計画の中に掲載(規定)※することができる。

※提案・掲載方法の詳細は、当市の村防災担当課にお尋ねください。

<背景>

- 平成25年6月に災害対策基本法が改正され、市町村の一定の地区内の居住者及び事業者(地区居住者等)による自発的な防災活動に関する「地区防災計画制度」が創設された。



行政と地域との連携で、共助を強化させることで、地区の防災力を高める！

ひな形を活用できます！

地区防災計画の「**ひな形**」を活用しましょう！
 みんなで意見・アイデアを出し合い、計画作りを通して
 住民の顔の見える関係をつくり、防災力を向上させよう！

＜作ってみよう 地区防災計画 ー地区防災計画の参考例ー＞



- 地区防災計画作成の「はじめの1歩」が踏み出せるよう、内閣府のガイドラインや県内の先進事例をもとに、熊本県が作成した**計画の参考例(ひな形)**。
- 計画のひな形のほか、**作成する際のポイントや参考情報が掲載**されていて、便利！
- PDF版と**Word版**があります！
- この参考例のとおりに計画を作成する必要はありません。地区の災害特性や取り組んでいる防災活動などに応じて、自由に作成してください。

熊本県 作ってみよう地区防災計画



■作成に当たってよくある質問

Q. 計画作成のために、何から始めればいいのか？



①

A. まずは、防災活動の中心となる地域住民を集めます。地区の代表者だけでなく、女性や若者、高齢者や障がい者など多様な人々に声を掛けましょう。その後、集まった人たちで話し合い、地区の災害リスクや現在の活動状況について整理しましょう。整理することによって、課題が見えてくるはずです。その課題を共有し、対策を考え、計画にまとめてみましょう。

②

③

①防災活動の中心となる地域住民を集める

多様な人

②地区の災害リスクや現状の活動状況を整理する

課題は何？

③課題を共有し、対策を考え、計画にまとめる

対策を検討


作成例(ひな形)の内容

作成例

□□□地区防災計画

基本方針：(例)・地域は、地域で守る
・想定外を共助で乗り越える

基本方針決定後は、その方針を達成するために必要なことは何か考えてみましょう。



令和〇〇年〇〇月

□□自主防災クラブ・自治会

項目一覧

大項目	小項目
表紙	計画の名称
	基本方針
地区の概要	地区の特徴（計画対象範囲、社会特性、災害リスク等）
	今後想定される災害
防災活動	活動目標
	活動体制
	平常時における防災活動（活動スケジュール）
	災害時における防災活動
地区防災マップ	中長期的に取り組む事項
	ハザードマップの活用
	危険箇所・防災設備や災害時要配慮者の把握
防災関係施設・資機材リスト	避難所位置や避難経路
	避難所リスト
	関係機関等連絡先リスト
地区防災タイムライン	保有防災資機材リスト
	水害版タイムライン、地震版タイムライン

POINT.

- > 計画の名称が「地区防災計画」である必要はありません。
(例) □□校区防災計画、□□自主防災計画、□□マンション防災計画など
- > 既に自主的な防災計画がある場合は、その計画が現在の地区の状況や想定される災害に合っているかどうか、改めて課題を見直しましょう。その際、様々な立場の人の視点を取り入れ、まとめていくことが重要です。

既に防災計画がある場合は、
多様な視点を入れて見直す

1. 地区の概要 (1)地区の特徴

1. 地区の概要

(1) 地区の特徴

①地区の範囲

□□町内会 (○丁目～○丁目)、□□校区 □□マンション など

②地区の社会特性

- ・人口：約○○○人 ・世帯数：約○○世帯
- ・高齢者人口 (65 歳以上) が占める割合は○%と、高齢化が進んでおり、災害時要配慮者も多く存在する。
- ・□□市のベッドタウンであるため、昼間と夜間人口に大きな差がある。
- ・□□地区は、戦後の高度成長期に整備されたニュータウンであり、住民の高齢化や住宅等の老朽化が問題となっている。
- ・□□地区は、新興住宅地であり、子育て世代が多い。など

③地区の災害リスク

- ・山間部の住宅地で斜面が多い地区である。
- ・土砂災害警戒区域に指定された場所がある。
- ・大雨で□□川が氾濫し、周辺地区が浸水したことがある。
- ・ハザードマップ上、□□駅周辺が浸水想定区域 (0.5m 以上 3.0 m未満) となっている。
- ・道路が非常に狭いため、災害発生時に緊急車両等の通行が困難になる可能性がある。など

地区の地形的な特徴や地区で災害が発生しそうな場所など、災害リスクに関する情報をここに記載します。

地区の**範囲**は自由に設定

地区の**特性**を踏まえて課題を記載する

- ・ **社会特性**
(人口構成、土地利用等)
- ・ **自然特性**
(地理・地形、過去の災害等)

POINT.

- > 町内会単位、小学校単位など、対象地区の範囲は自由に設定できます。
- > ひとつの地区だけで課題解決が難しい場合は、他の地区と連携して解決策を探ることも検討しましょう。
- > 地区の自然特性 (地理・地形、過去の災害等) や社会特性 (人口構成、土地利用等) を踏まえて、災害リスクに対する課題を計画内に記載し、共有することが重要です。

追加

1. 地区の概要 (2) 今後想定される災害

(2) 今後想定される災害 (例)

近年の災害は、時間雨量が100mmを超えるような豪雨や大地震など、天変地異とも言うべき自然現象による災害が発生しています。そこで、□□地区では、温暖化現象による気象変動や、近い将来発生するとされる日赤久断層帯による地震等の被害を次のように想定します。

災害種別	想定	対策
豪雨災害	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面の多い□□地区では、土砂災害が想定される。 ・□□川の氾濫によって、県道○号線が通行不能になる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難準備情報が出た段階で、避難行動要配慮者などについては、避難を行う。 ・避難する際には、隣近所にも声をかけ、速やかな避難を心掛ける。
地震災害	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、発生すると想定されている日赤久断層帯による巨大地震の想定震度は、□□地区では震度6弱とされている。加えて、液状化が発生する恐れがある。 ・家屋の倒壊、土砂崩れ火災発生や山林火災への延焼等により、人的被害も想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所を洗い出し、防災マップ上で整理する。 ・防災マップを各家庭に配布する。 ・避難する場合、ガスの元栓等を閉めるなどの出火防止に努めるよう啓発する。

【参考】地区の過去の災害 (例)

災害名称及び災害発生年月日	災害による被害状況と当時の状況
○・○豪雨 昭和○年○月○日	<p>熊本県中部から南部に降った梅雨前線は、○月○日後半より活発な活動を始め、○□□流域に多量の降雨をもたらした。流域の各地で日雨量が300~400mm(○日)を記録する豪雨となり、河岸決壊や谷間の流出などが発生した。</p> <p>□□地区では、床上浸水○世帯○人、床下浸水○世帯○人に被害があった。</p>
□□地震 平成○年○月○日	<p>建物倒壊による多くの死者・負傷者が発生し、電気・ガス・水道などのライフラインが停止した。</p> <p>地震により火災が発生、道路が非常に狭い箇所があり緊急車両の通行に影響が出た結果、延焼が拡大する事態が発生した。</p> <p>□□地区では、負傷者○人、全壊○棟、大規模半壊○棟、半壊○棟、一部壊壊○棟の被害があった。</p>
○・○集中豪雨 令和○年○月○日	<p>線状降水帯が熊本県の東西に連なるように発生したことにより、累計雨量が400ミリという記録的な豪雨となり、□□川が氾濫し、周辺地区が浸水した。</p> <p>□□地区では、床上浸水○世帯○人、床下浸水○世帯○人に被害があった。</p>

地区の特徴や過去の災害をもとに、今後予想される災害※を想定し、対策を立てる

※今後予想される災害の被害想定等は、県や市の「地域防災計画」や「ホームページ」で入手し確認

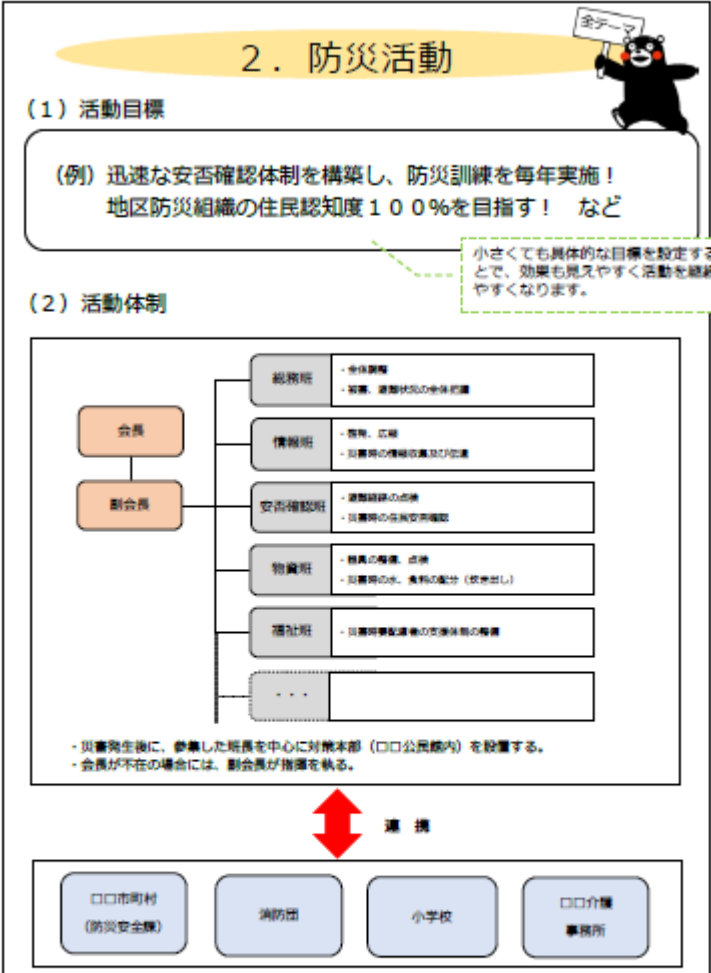
過去の災害情報や、県や市の「地域防災計画」や「ホームページ」で入手し確認

POINT.

- ▶地区の特徴や過去の災害をもとに、今後予想される災害を想定し、対策を立ててみましょう。
- ▶過去の災害については、県・市町村の地域防災計画やホームページ（例：気象庁「災害をもたらした気象事例」）等で確認してみましょう。

追加

2. 防災活動 (1)活動目標、(2)活動体制



実情にあった防災活動体制を構築する

災害時には、**臨機応変な対応**を求められる場合がある。その際の**体制**も想定しておく
(例)会長が不在の場合の代替者

災害に備え、地域にどんな組織があるかを把握し、**連携**を目指しましょう。

POINT.

- > 実情にあった防災活動体制を構築しましょう。
- > 災害時には、臨機応変な対応を求められる場合があります。その際の体制も想定しておきましょう。
- > 災害に備え、地域にどんな組織があるかを把握し、連携を目指しましょう。

2. 防災活動 (3) 平常時における防災活動

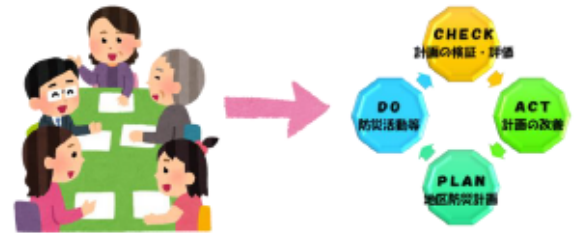
(3) 平常時における防災活動 (例)

項目	具体的内容	実施時期
防災訓練・防災訓練	市町村や消防団との合同防災訓練を開催する。避難所運営、消火訓練等を実施する。	毎年5月頃
防災知識の普及・啓発	早期避難に関する防災研修会を開催する。	毎年6月頃
	地区の防災活動内容を周知するため、夏祭りの参加者に防災グッズと合わせて、地区防災計画の概要版を配布する。防災に興味を持ってもらえるよう防災クイズや防災ピクニックなどを行う。	毎年7月頃
	子どもたちが防災に興味を持てるよう防災クイズ大会や防災ウォークラリーを開催する。	毎年9月頃
地区の安全点検	地区内の危険箇所を把握するため、地区防災マップの更新を行う。	毎年10月頃
災害時要配慮者の支援体制の整備	災害時要配慮者リストの更新を行う。	毎年11月頃
地区防災計画の見直し	1年間の防災活動を検証し、計画の見直しを行う。	毎年3月頃

年間の恒例行事と防災活動を組み合わせると効果的
(例)祭り、地区運動会

POINT.

- > 年間の恒例行事(祭り、地区運動会など)と防災活動を組み合わせると効果的です。
- > 1年間を通して活動を行った締めくくりとして、年度末に検証・評価を行い、次年度に向けて計画内容を見直すことが大切です。



<PDCAサイクルで改善>
1年間の活動の締めくくりとして、**年度末に検証・評価**を行い、次年度に向けて**計画の内容を見直す**ことが大切

追加

2. 防災活動 (4) 災害時における防災活動

(4) 災害時における防災活動 (例)

活動名	担当	活動内容
役員・招集 地区災害対策本部	会長 副会長 総務班 各班長	<p>・会長は、役員を招集し地区災害対策本部（地区防災本部・緊急役員会など）を立ち上げる。</p> <p>【地震】震度6以上の地震発生 【風水害】警戒レベル4以上が発達される場合（警戒レベル3の時点で招集）</p> <p>➢組織全体の動きを把握し、災害対応に必要な人員の投入や活動調整を行う。</p>
情報収集・伝達	会長 副会長 情報班	<p>・災害が発生、もしくは危険が予想される場合には、防災無線や連絡網等を使用し、住民に対して避難するよう呼びかける。</p> <p>・地区の被害状況を把握する。</p> <p>➢市町村との取り決めに基づき、地区の被災状況などを取りまとめ、市町村防災担当課へ報告する。</p>
安否確認	安否確認班	<p>・地区住民の安否確認を行う。</p>
災害時要配慮者の支援	福祉班	<p>・要配慮者リストに基づき避難支援者に連絡を行い、災害時要配慮者の安否確認、避難の支援を行う。</p>
避難所の運営	総務班 物置班 福祉班	<p>・〇〇小学校に開設された避難所の運営を行う。</p> <p>➢受付簿を設置し、避難者の受け入れ準備を行う。</p> <p>➢避難者の状況について取りまとめる。</p> <p>➢住民が持ち寄った食材等により炊き出しを行う。</p> <p>➢避難者に困りごとがないか声掛けを行う。</p> <p>➢防災対策のため避難所内の巡回を行う。</p>

災害によって事象を分け対応を決めておく

災害が発生する恐れがある場合 (風水害等)

1. 必要な情報を収集
2. 役員会や地区対策本部で話し合い
3. 住民に適切に情報を発信し、避難行動を促す

災害が発生した場合

1. まず速やかに安否確認を実施
 2. 災害時要配慮者の支援
 3. 住民に寄り添った避難所運営
- ・「安全」と「安心」が最優先
 - ・地区住民に被災した人がいる場合は、気持ちに寄り添う対応を心掛ける

POINT.

- 災害が発生する恐れがある場合は、地区の被害を最小限に抑えるために、必要な情報を収集し、役員会や地区対策本部で話し合ったうえで、住民に適切に情報を発信し、避難行動を促しましょう。
- 災害が発生した場合は、まず速やかに安否確認を行い、住民に寄り添った避難所運営を行うなど、安全と安心の確保を優先しましょう。
- 地区の住民に被災した人がいる場合は、気持ちに寄り添った対応を心がけましょう。

2. 防災活動 (5) 中長期的な活動予定

(5) 中長期的な活動予定 (例)

課題	内容	達成目標・時期
担い手の育成	・県が開催している防災士育成研修(火の国ぼうさい塾)へ参加する。	令和〇年度までに防災士資格取得者〇人。
井戸水マップの作成	・井戸の分布図を作成する。いつ誰がどのように使用しているかを確認し、地図にまとめ、避難所などに掲示する。	令和〇年度までの完成を目指す。
マイタイムラインの普及	・マイタイムラインの作成支援を行う。 ※マイタイムラインとは、住民一人ひとりが、自ら考え命を守る避難行動をとるための防災行動を時系列に整理したもの。	令和〇年度までに各家庭の作成率〇〇%を目指す。
隣接地区との協力・連携	・大規模災害が発生した場合、1地区だけでは対応しきれないことも想定されるため、隣接地区との協力、連携を図る。 ・隣接地区との合同防災訓練の開催。	令和〇年度までに、合同防災訓練を実施する。

地区の防災活動の中で、中長期的に取り組むことで成果があがる活動や、地区の防災活動における中心的人材の育成などを考えることが大切

<主な項目>

- ・ 課題
- ・ 活動内容
- ・ 達成目標
- ・ 実施する時期

POINT.

➤地区の防災活動の中で、中長期的に取り組むことで成果があがる活動や、地区の防災活動における中心的人材の育成などを考えることが大切です。

3. 地区防災マップ

追加



〇〇市の「ハザードマップ」等をベースにし、実用性のある地域ならではの「地区防災マップ」を作成する

- 危険箇所
- 避難場所
- 災害時に利用できるもの
- 要配慮者の情報
- 避難時の注意点

※マップを作成する際には、個人情報に十分配慮する

POINT.

- > 市町村が作成した「ハザードマップ」等をベースにし、危険箇所、避難場所、要配慮者等をはじめ、地区ならではの情報を盛り込んだ地区防災マップを作成しましょう。
- > 危険箇所等を盛り込むだけでなく、避難時の注意点等も合わせて記載することで、より実用性のあるマップが完成します。
- > マップを作成する際には、個人情報に十分配慮すること。

○事例紹介：「災害時等支え合いマップ」の作成（人吉市 永野町）

- > 災害時要配慮者を、誰が避難支援するのかといった情報を地図に書き込み、地域で情報を共有し、災害に備えている。
- > マップの対象者には、見守り活動を実施するなど、日常的な支え合い活動にも活用している。

4. 防災関係施設・資機材等リスト

(1)避難所、(2)関係機関、施設の連絡先

4. 防災関係施設・資機材等リスト

(1) 避難所

類別	施設名	住所	避難所開設者	電話番号
一次避難所	<input type="checkbox"/> 公園			
	<input type="checkbox"/> 広場			
指定避難所	<input type="checkbox"/> 小学校		<input type="checkbox"/> 自主防災組織	TEL
	<input type="checkbox"/> ホール		<input type="checkbox"/> 市町村職員	TEL

(2) 関連機関・施設の連絡先

類別	施設名	住所	電話番号
市町村	<input type="checkbox"/> 市町村 危機管理防災課		TEL
	<input type="checkbox"/> 病院 (内科、小児科)		TEL
医療機関	<input type="checkbox"/> 整形外科病院		TEL
	<input type="checkbox"/> 消防署		TEL
消防署	<input type="checkbox"/> 交番		TEL
電気	<input type="checkbox"/> 電力 営業所		TEL
	<input type="checkbox"/> ガス 営業所		TEL
ガス	<input type="checkbox"/> 水道 事務所		TEL
水道			TEL

避難所リストを作成する際は、**避難所の開設者**や**避難経路**、**避難の所要時間**などを確認

記載する**関係機関**とは、関係構築のため**定期的**に交流を行うなど「**顔の見える関係づくり**」を行っておくと良い

POINT.

- ▶ 避難所リストを作成する際には、避難所の開設者や避難経路及び避難に要する時間などを確認しましょう。
- ▶ 関係機関に記載する機関とは、関係構築のため定期的に交流を行うなど「顔の見える関係づくり」を行っておくと良いでしょう。

4. 防災関係施設・資機材等リスト

(3) 保有防災資機材リスト

(3) 保有防災資機材リスト (例)

物品	数量	保管場所	備考
発電機	2	□□公民館	
ヘルメット	31	□□公民館	
拡声器	3	□□公民館	
ブルーシート	15	□□小学校倉庫	
...			

地域の実情、活動体制等を踏まえ、**どのような資機材**を備えるべきか、**保管場所**をどうするか十分に検討することが重要

POINT.

- > 地域の実情、活動体制等を踏まえ、どのような資機材を備えるべきか、保管場所をどうするか十分に検討することが重要です。
- > 役員交代等で管理が行き届かなくなる事例も多いため、定期的に資機材の点検や使用方法の確認を行いましょう。

防災資機材の例

- ① 情報収集・共有・伝達
無線機、拡声器、ラジオ、地図、模造紙、マジック など
- ② 初期消火
ポンプ、散水装置、防火水槽、ホース、消火器、防火衣、ヘルメット、バケツ など
- ③ 救出・救護
ハール、はしご、のこぎり、スコップ、ロープ、担架、救急箱、毛布 など
- ④ 避難所運営
発電機、標識板、ブルーシート、寝袋、筆記用具 など
- ⑤ 給食・給水
炊飯装置、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク など

役員交代等で管理が行き届かなくなる事例も多い

定期的に、資機材の点検や使用方法の確認を行う

5. 地区防災タイムライン

5 地区防災タイムライン

●○○自主防災組織タイムライン（水害版）

警戒レベル	気象庁発表	○○地区自主防災組織	住 民	○○市町村
5	大雨特別警報 注意警報	命を守るための最善の行動をとる		災害発生情報
4	土砂災害警戒情報 注意警報 高潮警報	一般住民への避難呼びかけ 避難誘導開始	一般住民の避難開始 (周辺市への避難の呼びかけ)	災害対策本部の設置 避難指示の発令
3	大雨警報 出水警報 注意警報	地区災害対策本部設置 被害、避難状況の全体把握 災害時要配慮者の支援開始	災害時要配慮者の 避難開始	高齢者等避難の発令 消防団出動要請 町内全避難所の開設
2	大雨注意報 洪水注意報 注意注意報	役員へ連絡 住民への注意喚起 地区の状況確認	非常用持出品の確認	防災行政無線で、住民へ注 意喚起の放送 水防待機開始
1	早期注意報	テレビや熊本地方気象台ホームページ等から情報の収集		

水害版

地区防災タイムラインは、「いつ」「誰が」「何をするか」を時系列で整理した計画

予め作成することで、災害時に判断に迷う時間を減らすことができる

- 水害版
- 地震版

地震版

●○○自主防災組織タイムライン（地震版）※震度6弱以上を想定

	経過時間	一般的な出来事	○○地区自主防災組織	住 民	○○市町村
活動対応	発災直後	地震発生 建物倒壊、出火が始まる 停電、断水、ガスが止まる	身の周りの安全確保 情報収集開始	身の周りの安全確保 火元の確認、出火防止	災害対策本部設置 (職員参加)
	1時間まで	救命救急活動 火災が拡大 二次災害の呼びかけ	地区災害対策本部設置 安全確認や被害情報収集 地区の見回り開始 災害時要配慮者支援	一時避難所へ参集	防災行政無線で、住民へ注意喚起の放送 被害状況調査
応急対応	6時間まで	被害の中心地や範囲が判明	避難所開設準備 資機材の搬入、設置	避難所へ移動	避難所担当職員が 避難所を開設
	1日まで	自衛隊が到着	給水、給食活動 避難者の体調管理		支援物資の配送
	3日まで	広域火災が鎮火、停電解消 ボランティア支援開始 生き埋めなどの生存低下	ボランティアと連携開始 在宅避難者の把握と支援		ボランティアセンター開設 応急危険度判定
復旧期	2週間まで	行方不明者の捜索完了 仮設住宅の建設 水道やガスの復旧			住家被害認定調査
復興期	1か月後	仮設住宅入居開始	地区災害対策本部解散		震災証明書発行 被災者支援制度

POINT.

> 「いつ」「誰が」「何をするか」をあらかじめ時系列で整理することで、災害時に判断に迷う時間を減らすことができます。



計画作成に行き詰まったら

追加

Q. 計画作成で行き詰まった場合にはどうすればいいの？



A. 地区防災計画を作成していく中で、地区だけで解決できない問題等が出てきた際には、市町村の防災担当課に相談するなど第三者の視点を取り入れてみましょう。解決の糸口が見えてくるはずです。

計画の作成中に行き詰まったら、市にご相談ください！

連絡先：〇〇市〇〇課 担当〇〇、〇〇

電話：9999-99-9999

メール： @

住所：

3. 地区防災計画の作成 - まとめ -

- 「地区防災計画」づくりを通じて、地域住民の顔の見える関係づくりを進め、地域の防災力を向上させましょう
- 計画作成後は、住民に計画の内容を説明する機会を設け、計画に基づく防災活動を継続しよう

まとめ

- 地域で情報収集・伝達や安否確認を円滑に行う仕組みを理解し、地域ぐるみで取り組みましょう
- 地域の命を守るために、地域で協力し合って「個別避難計画」を作成し、避難を支援できる体制を整えましょう
- ひな形を活用して「地区防災計画」を作成し、地域の防災力を向上させましょう